

潮来市 日本一の水路のまち基本計画

概要版



令和4年1月

潮 来 市

序. 計画の概要

(1) 計画の目的

- 本市は、鹿島神宮への経路として板来の駅が設置されて以来、近・現代に至るまで、陸上や海上交通の要衝として栄え、水郷潮来として広く知られてきました。日本一の水路のまち基本計画は、潮来市の地域資源である水郷地形において「前川」「延方干拓南幹線用水路（以下「南幹線用水路」と称します）」の「舟運」「かわづくり」「かわを活かしたまちづくり」と潮来市内の活性化及び「霞ヶ浦(西浦)」「北利根川」「利根川」「鰐川」「北浦」「外浪逆浦」などの広域的な「水路」に着目し「日本一の水路のまち」の具現化を図るものです。
- 特に舟運の再生と船着場の整備について重点的に取り組むものとします。

(2) 計画の対象

- 計画の区域は、潮来市およびその周辺とし、舟運や東国三社参りなどの隣接地域を含めたものとします。特に「前川」と「南幹線用水路」を計画の中心とします。



(3) これまでの経緯

- 本基本計画は、以下の潮来市を取り巻く水郷環境を活かした構想・計画等の延長上にあり、実施計画の性格も持っています。直近では、前川津軽河岸跡整備基本計画（H29）に基づき津軽河岸あと広場が令和元年に整備されました。



出典：前川津軽河岸跡整備基本計画策定業務報告書より

1. 現況の整理

(1) 潮来市の状況

<自然・歴史・資源>

- 潮来市は、前川が市街地を流れ、多様な水辺に囲まれています。
- 鎌倉時代からの交通の要所で、水上交通の発達に伴い栄えた後、水郷遊覧等で賑わう“あやめの潮来”として人気を得てきており、昭和初期まで小舟の行き交う風景が見られました。
- 水路や水辺等の特徴的な地形と江戸期の水運と河岸文化及び水郷遊覧が積み重ねてきた文化的資源があり、「水郷潮来あやめ園」や「前川十二橋めぐり」などの体験観光に加え、近年は水上スポーツやサイクリングなどが新しい資源となっています。

<人口・水辺の整備>

- 人口は2.7万人あまりで、平成7年をピークに減少に転じており、今後少子高齢化が進むと推定されます。
- 前川と南幹線用水路は、治水と利水の視点からの取り組みが進められており、あやめ園（前川水門）から大洲閘門までを計画区間として河岸跡の再生整備や右岸回遊路整備等に取り組んでいる他、一級河川前川改修事業による前川中流部の拡幅と4つの市道橋の架替を進めています。

(2) 水路の現況

- 北利根川、前川、鰐川は護岸整備が行われており、南幹線用水路は自然河岸が残っています。特に前川は木杭を模した化粧護岸が多く用いられています。
- 道路や堤防のある北利根川と鰐川、前川の南側は水辺に近づくことが容易です。前川の北側の一部沿川は住宅地等になっているため、水辺に近づく場所が限られます。南幹線用水路の道路から水に近づくことができます。用水路沿いはのどかな風景が広がっています。
- 上米橋より下流の前川は、北側に河岸文化の名残をとどめる河岸跡や歴史的な道筋などが残っています。
- 前川沿いには柳、桜、ポプラなどの並木があり、あやめやアジサイなどの花も多く見られます。道の駅いたこ以東の南幹線用水路（南側）では屋敷林が風景のアクセントとなっています。
- 水路には、前川十二橋を含む特徴のある橋がかかっています。水面からは、沿川の並木や家々の垣・柵のある水辺の風景を楽しむことができます。

(3) 他地域に見る事例

- 本計画策定にあたり、近江八幡や柳川、アムステルダムやサンアントニオなど、内外の水辺整備の取り組みを参考としました。

(4) 日本一の水路のまちの視点

- ① 水郷潮来の歴史的背景を受け継ぎつつ、皆が共感できる「日本一の水路のまち」像（定義）を示す
- ② 定義にかなう日本一の水路のまちに必要な都市や空間の構造・機能・デザイン等の考え方や具体的な空間イメージをまとめていくこと、及び、魅力の中身の精査や充実を図る
- ③ 実現の担い手や手法、官民の役割等を整理し、日本一の水路のまちの実現を確かなものにする



長勝寺



さっぱ舟の風景



岸壁（潮来港）



化粧護岸（前川）



桜並木（前川）



ポプラ並木（前川）



自然河畔（南幹線用水路）



前川の水辺（大洲）



水郷潮来あやめ園



米島閘門

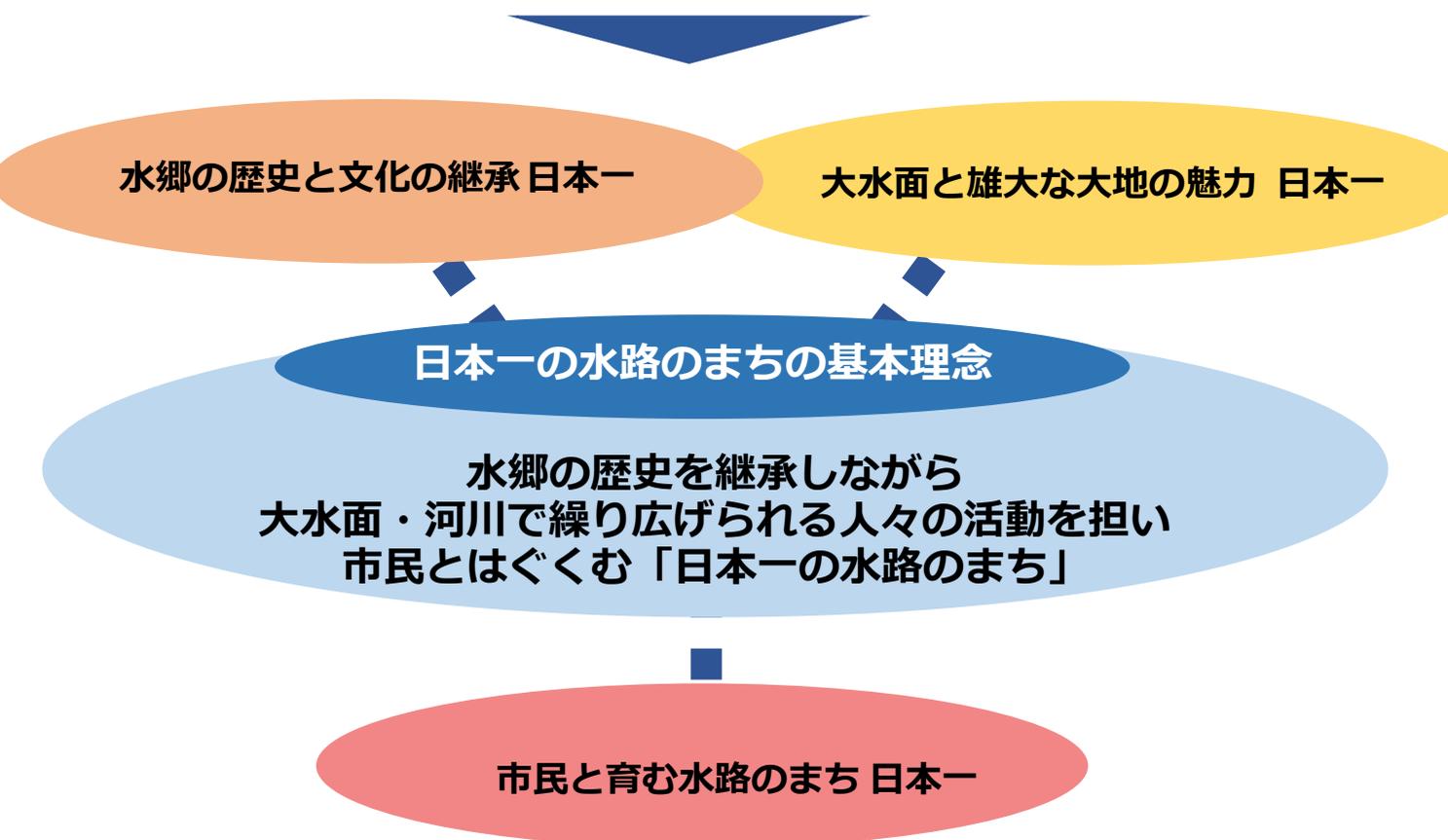
II - 1. 基本理念

■水郷潮来の原風景

- 潮来が水運の拠点として栄えていたころ、江間（エンマ）と呼ばれる水路が街中に敷設され、日常交通の手段として活用され、また、のどかな風景とこれらの水辺環境の全体的な風情が、とても情緒的で、水郷潮来の原風景となっていました。
- 水上交通という手段が陸上交通に転換した現在も、潮来の風景はかつての名残をとどめ、まちの生活のなかにもその情緒的な息づかいを感じることで魅力的なまちとなっています。

■「日本一の水郷」は「日本一の水路のまち」として成り立つ

- 潮来を中心としてその風景を広域的にみると、豊かな「水」「水辺」のある風景は、この地に根ざし、原風景を形づくっていることがわかります。県土のうち河川の占める面積も徳島県、埼玉県について茨城県が多く、そのなかでも水のある風景は、潮来周辺に突出しています。
- 加えて「日本一」という言葉に突出してとらえれば、この低湿地は日本一広く平坦であることはゆるぎないと言えます。
- このことから、のどかで穏やか、平坦なすごしやすいまちの風景を持つ潮来市を「日本一の水路のまち」として位置づけ、市内の前川や南幹線用水路の活性化を図り、さらに周辺の河川・湖沼を活用した広域的なまちづくりに取り組むものとします。
- 「日本一の水路のまち」の実現を通して、「日本一の水郷」を生み出します。



II - 2. 基本方針

■方針1 水郷潮来あやめ園や前川筋に残る水郷の歴史や文化を継承し未来に拓きます

<ターゲット>

- 観光客：これまでの観光の中核であったシニア層に加え、外国人観光客、障がい者や旅行形態の変化による3世代（子育て世代）
- 水路の風景づくりにかかわる沿川の人々や水郷の文化を継承する人々

<考え方>

- 潮来港や水郷潮来あやめ園などの水郷の魅力に磨きをかけ、未来に継承します。
- 前川筋に残る潮来のまちの記憶を楽しむ空間とこれを楽しむ舟運環境を整えます。
- 前川・曲松周辺の水面や南幹線用水路沿いの雄大な土地の魅力を引き出します。

■方針2 大水面と大地の魅力を引き出し、水上レクリエーション等の水路の利活用を推進します

<ターゲット>

- 水辺を活かした水上レクリエーションとその振興に関わる人たち： 潮来の多様な水辺環境を活かした水上スポーツやサイクリング、ウォーキング、レジャー等を楽しむ市民及び関連イベントに集まる潮来市内外の人たち

<考え方>

- 多様な水面や大水面を活かして新しい水路のまちの魅力を高めます。
- 多彩な水上スポーツやレクリエーション、レジャーを楽しむ人々を呼び込み、水郷潮来の魅力を伝えます。

■方針3 市民の日常に寄り添う水路のある暮らしを、市民とともに実現します

<ターゲット>

- 潮来市民、水路の近隣住民・生活者等： 水路のある暮らしを日常としている人たち。例えば、水路や水辺周辺で暮らす人々（市民や生活者）や近隣市にお住まいでよく潮来に来られる方々（将来潮来市民となる又は水路のあるまちに関わる可能性のある人々を含めます）。
- 来訪者・観光客： 潮来を訪れる来訪者や観光客など、潮来市や潮来の水路、水路周辺のさまざまな場所に訪れる方々

<考え方>

- 季節や時間、眺望や風景を楽しむことのできる日常に溶け込む水路のまちを創造します。
- 水路を介して市民の交流の機会を増やし、移住定住の促進を図ります。
- 原風景を大切にしながら、市民とともに日本一の水路づくりに取り組みます。
- 水上を利用する関係者に対しての利用ルールをつくり、マナーの向上を図ります。



III. 個別計画

< 3. 舟運の拡充 >

(1) 舟運ルートの拡充

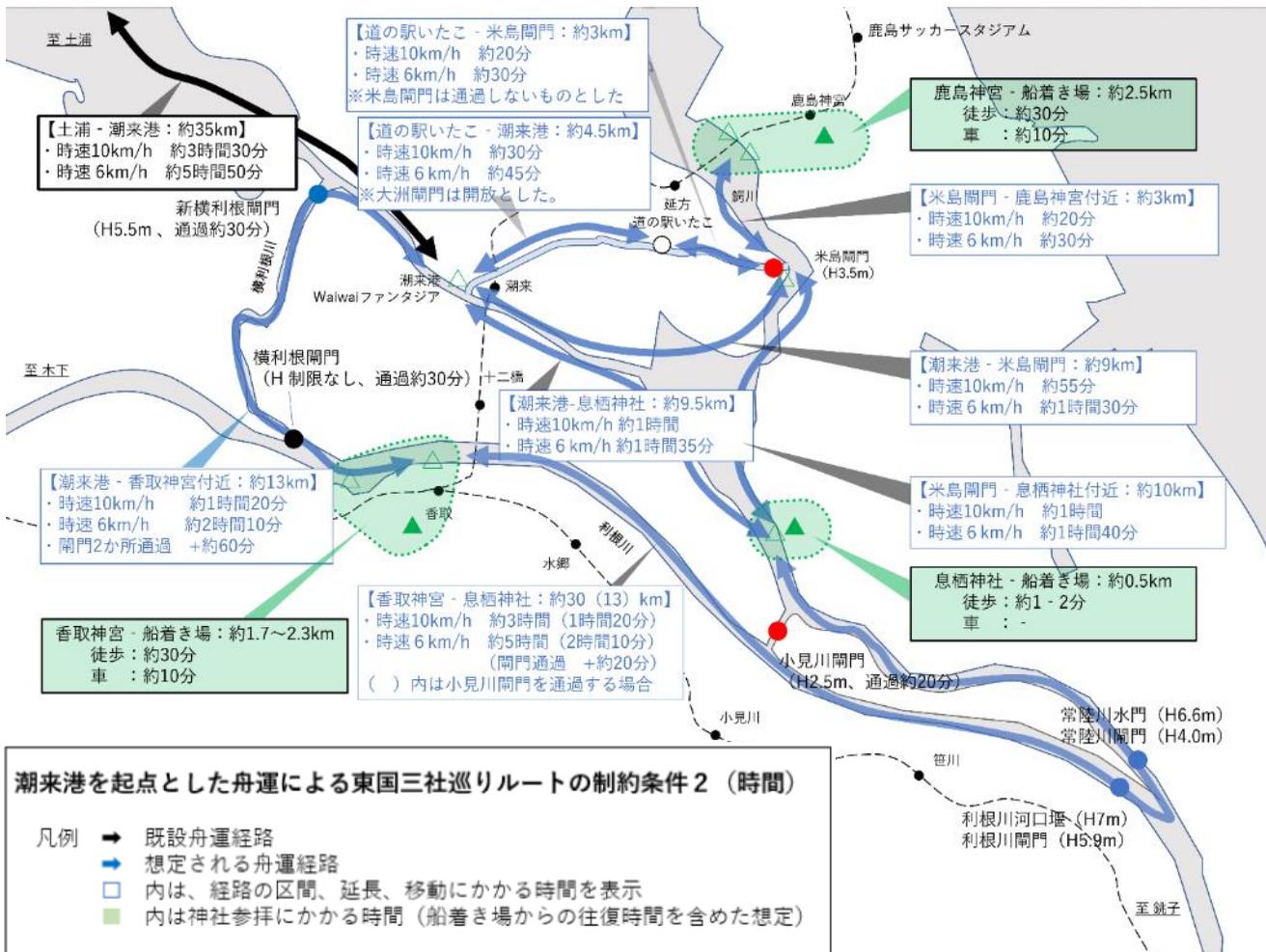
- 観光遊覧船 ⇒ 4 コースに拡充、道の駅いたこまで延伸
 - ・ 周遊コース1 津軽河岸跡～曲松下（40分）
 - ・ 周遊コース2 潮来港～曲松下（50分）
 - ・ 周遊コース3 大洲開門～道の駅いたこ（20分）
 - ・ 直行便 潮来港～道の駅いたこ（40分）
- 曲松下にポート・カー乗り場を新設整備
- ※ 舟・さっぱ舟（あやめ祭り期間中運航）を継続



舟運のイメージ（伊太郎茶屋付近）

(2) 東国三社参り（構想）

- 河川構造物（開門・水門等）の状況より
 - ・ 大きさの限界 船の幅 3m 高さ 3.5m 程度
 - ・ 乗船時間が長く、コース分割や移動手段の複合化が必要
 - ・ 船着場の確保（三社）及び社殿までの移動手段の確保が必要（鹿島神宮・香取神宮）

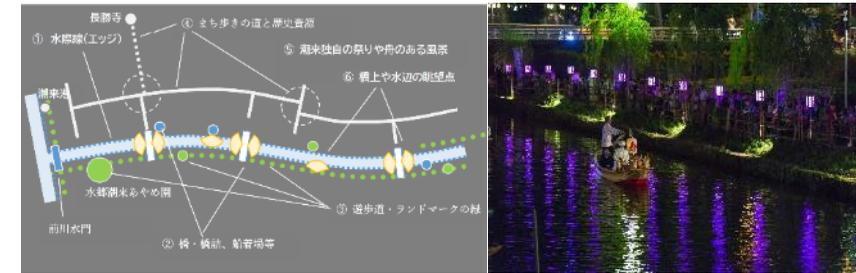


東国三社参りの接岸場所の例 左から鹿島神宮西の一の鳥居付近、香取神宮津宮鳥居河岸付近、息栖神社一の鳥居付近

< 4. その他の取組み >

(1) 夜の景観づくり

- 潮来港や前川やあやめ園、南幹線用水路などをライトアップし、夜間の景観の魅力向上を図ります。
- 水際、橋・橋詰や船着場、遊歩道やランドマークの緑、線形に昔の名残を留める道、船やまつりのあかりを活かした景観づくりに取り組みます。



夜の景観づくりの要素

美しい夜の風景（あやめまつり）

(2) 水上スポーツとサイクリング

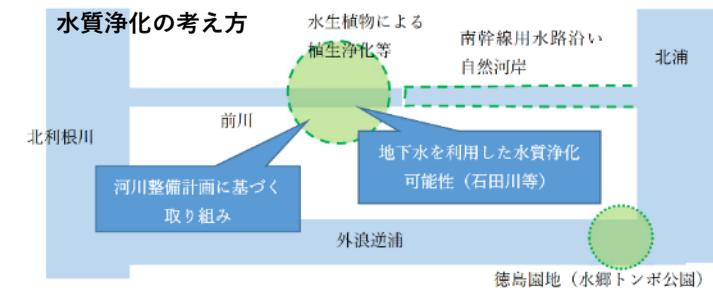
- 盛んな水上スポーツを通じて、北利根川や鰐川などの水辺利用を促進します。
- つくば霞ヶ浦りんりんロードと前川や南幹線用水路などの水辺沿いの道を接続しサイクルツーリズムの聖地を目指すとともに、水辺の魅力伝える機会をつくります。



盛んな水上スポーツ

(3) 水質の浄化

- 前川では石積みを用いて地下水の流入を図り、橋梁架け替えの際には矢板に通水性を持たせるなど、水質浄化を進めています。さらに前川・南幹線用水路に残る自然河岸では、自然河岸の保全、生態系に配慮した整備や浄化対策等の推進に取り組みます。



IV. 事業の推進

(1) 市民との協働

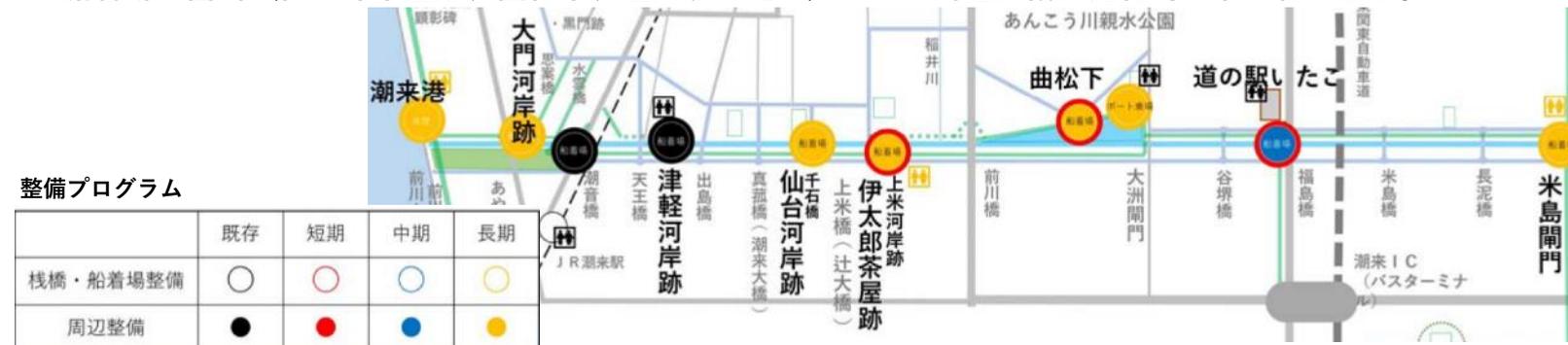
- まちづくり全般、舟運事業の推進、交通利便の向上（交通事業者等）、水面利用の調整のための協議の場を設けるとともに、市民との協働・参画の場づくり（計画づくりへの参画、具体の活動の協議への参画、計画の進捗管理への参画、官民パートナーシップの場づくり等）に取り組みます。

(2) 南幹線用水路の位置づけ

- 南幹線用水路は、当面、用水路として管理し、将来、一級河川化や公園化を含めて今後の取組みを検討します。

(3) スケジュール

- 船着場3箇所（伊太郎茶屋跡、曲松下、道の駅いたこ）とその周辺整備に先行的に取り組みます。



潮来市 日本一の水路のまち基本計画

令和4年1月

潮来市役所 企画調整課

〒311-2493 潮来市辻626
Tel.0299-63-1111 / Fax.0299-80-1100